

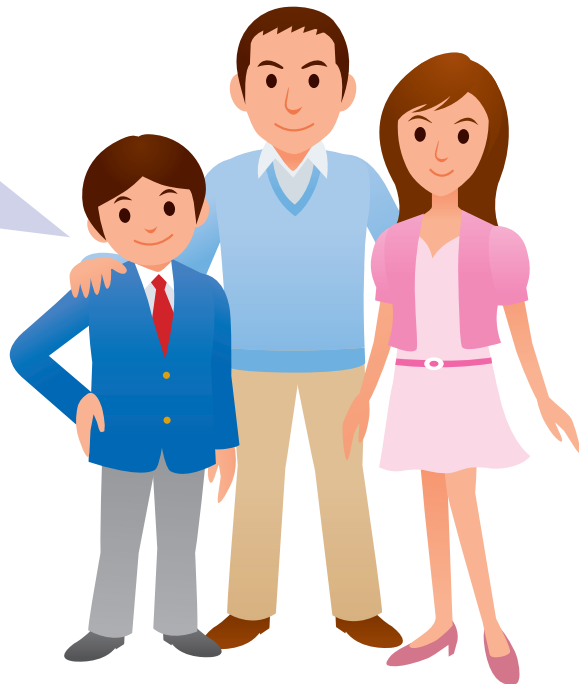
教えて！ にちぎん

「タンカン」ってなに？

——日銀の調査・研究、統計作成

日本銀行で広報を担当する父を持つ大学生の知子さんと中学生の学くん。今回は、日銀が政策や業務を適切に運営するためにやっている調査・研究について勉強します。日銀をよくご存じない方も、一緒に訪問した気分でお気軽にお読みいただければ幸いです。より詳しい内容は、HPの「教えて！にちぎん」をぜひご覧ください。

<http://www.boj.or.jp/oshiete/index.htm>



「タンカン」とは

お父さん、テレビのニュースで「日銀が『タンカン』を発表した」って言うってたけど、「タンカン」ってなに？

ニュースでは何か言うってなかったかい？

「企業の景気の見方が少し良くなった」と言ってたよ。

学もちゃんとニュースを聞いているね。そう、「タンカン」は、日銀が企業にお願いしている統計調査の一つなんだ。正式名称は「全国企業短期経済観測調査」だけど、「短観」の名前の方が有名だ。海外でも、「TANKAN」として広く知られているよ。

企業の景況感

私も学と一緒にそのニュースを聞いていたけど、企業の景気の見方なんて、どうやって調べるんだろうと思ったわ。

二人が聞いたニュースは、「業況判断D-」について話していたんだろう。これは、企業に、収益を中心とした業況全般につい

てどう思うかを、「良い」「さほど良くない」「悪い」の三つの中から選んでもらうんだ。

それは、その企業だけの業況なの？

その通り。だから、たくさん企業の間に聞いているんだ。

でも、三つの回答をした企業の割合を前回と比べるのでは、全体の動きは分かりにくいわ。

それが一目で分かるよう、D-（ディフュージョン・インデックス）という指標にするんだ。

さっきの「D-」だね。どうやって作るの？

簡単だよ。全体の中で、「良い」を選んだ企業の割合から、「悪い」を選んだ企業の割合を引くんだ。例えば、「良い」が40%、「さほど良くない」が40%、「悪い」が50%なら、40から50を引いた▲10がD-となる。D-の動きを見れば、景気に対する企業の



見方の変化が簡単に分かるよ。

それは便利だね。短観はどれくらい前から作られているものなの？

現在と同じペースで作りはめてから、もう三〇年以上にもなるよ。公表は三カ月ごとだよ。

質問内容

短観では、「業況判断」だけを聞いているの？

いや、他にもたくさん聞いているよ。例えば、製品の需要が供給を上回っているか下回っているか、在庫は不足か過大か、原料等の仕入価格や製品等の販売価格は上がっているか下がっているか、資金繰りは楽か苦しいか、設備や従業員は余っているか不足しているか、などだよ。

短観って、企業の判断を聞く統計調査なの？

いいや、計数を聞く質問もあるんだよ。例えば、売上高、利益や設備投資の金額、雇用者数などだ。判断項目、計数項目とも現在のところではなく、先行きの見通しも聞いているんだ。

何社くらいに聞いているの？

約一万社だよ。短観は、多くの企業の人の理解と協力があった、成り立っているんだ。

日銀はなぜそんな統計調査をやっているの？

学も良い質問をするようになったね。じゃあ、日銀の調査・研究活動について説明しよう。

日銀の調査・研究活動

日銀は、短観のような統計の作成・公表だけでなく、さまざまな調査活動を行っているんだ。学の質問に答えると、日銀が調査をしているのは、日銀の政策や業務を適切に運営するためだよ。何を調査しているの？



企業ヒアリング

例えば、金融政策との関係

では、国内や海外の「経済」や「金融」について、最近の動きや長期的な傾向について調査している。

また、経済や金融の基本的な問題に関する研究もしているよ。

以前、「金融市場局」を訪問したとき、国内や海外の「金融市場」の調査をしていると伺ったわ。よく覚えていたね。それ以外では、国内経済の調査は「調査統計局」、海外経済の調査は「国際局」、金融環境や金融政策に関する調査は「企画局」、経済や金融の基本的な問題に関する研究は「金融研究所」などが担当しているんだ。

海外も含めて色々調べなきゃならないなんて、大変だね。

調査や研究が好きな人にはとても面白い仕事だと思うよ。常に勉強しないといけないけどね。

机に向かっているのが苦手な学には、向かないんじゃない？

いやいや、机に向かっているだけでいいよ。例えば、ヒアリングと言って、企業に出かけて行って直接お話を伺うことも多いんだ。国内の支店や海外の駐在員

事務所とも協力して調査を行っているよ。

調査結果はどのように使われているの？

調査結果は、毎月の金融政策決定会合で議論の材料として活用されている（「金融経済月報」で公表）ほか、「日銀レビュー」や各種レポート、調査論文等のかたちで公表されているよ。

次は研究について教えて。そもそも調査と研究は違うの？

厳密な区別は難しいけど、研究は、経済や金融の専門的な問題をテーマとして、理論やデータに基づく分析を行うものと言えるかな。

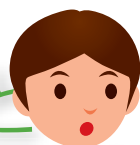
アカデミックな感じね。学界とも関係があるの？

内外の学界とも交流して研究の質を高めているよ。国際コンファランスもやっていて、学識者との議論の成果は一般の人向けにも公表しているよ。

なんだか、また日銀に見学に行きたくなっちゃった。

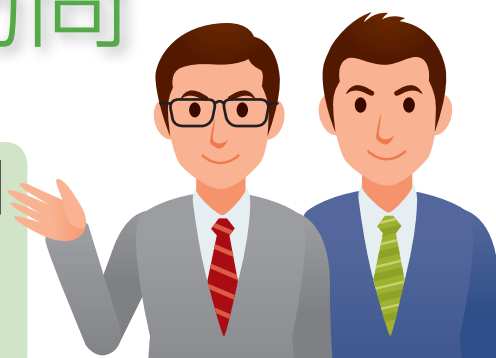
じゃあ、今回は調査統計局と金融研究所の人にとくにお願いしてみるよ。

知子さんと学くんの 日銀訪問



【調査統計局、金融研究所】

先日、お父さんから日銀の調査・研究活動の概要を教えてもらった知子さんと学くん。今回は調査統計局の門間さん、金融研究所の高橋さんを訪問し、見学しながら話を聞くことになりました。



調査統計局

こんにちは。神田知子と申します。よろしくお願ひします。

調査統計局の門間です。ようこそいらっしゃいました。

弟の学です。本がたくさん積んであって、難しそうなお仕事ではないかと思つて緊張しています。よろしくお願ひします。

調査統計局は、どんなお仕事をされているのですか？

国内経済の調査と、統計の作成です。国内経済の調査を行うのは、金融政策を適切に運営する上で、景気や物価の現状と先行きについて、的確な判断や見通しを持つことが必要だからです。私もでは、これを「景気動向調査」と呼んでいます。

金融政策に結び付くお仕事なのですか？
そうですね。国内経済に関する様々な調査・分析を行つていて、その成果を毎月開催される金融政策決定会合の場などで報告しています。

どんな方法で調査しているのですか？

大きく分けて二つの方法があります。一つは、色々な統計を使って全体的な視点から経済状況を分析する「マクロ調査」。もう一つは、主に企業に対するヒアリングで得た情報をもとに分析する「ミクロ調査」です。統計の分析だけではわからない変化もヒアリングで把握するよう努めています。

次に、統計の作成に関するお仕事について教えてください。

統計の作成については、お父さんから説明のあった「短観」のほかにも、物価の動向をつかむ上で重要な「企業物価指数」、金融に関する統計として「マネーストック」、「資金循環」などを作成しています。

統計を作成するのも、金融政策のためですか？

そうですね。これらの統計は、景気や物価の動向の分析に使い、金融政策に活用されていますが、その他の業務の運営にも利用されています。もちろん



局内の会議

ん、日本銀行だけが使うのではなく、ホームページなどを通じて広く公表もしています。

私たちも使えるんですね。今度、ホームページを見てみます。

はい。ぜひ一度、利用してみてください。ところで、景気の現状を判断し、先行きの見通しをつくるには、日本銀行が作っている統計だけでは足りません。GDPや雇用統計、消費者物価など、他の機関が作っているものも活用しています。

統計を分析するだけで、景気の先行きまで見通せるのですか？

いいえ。統計データは過去のものであり、これだけで先行きの見通しを行うことはできません。もちろん、統計データをしっかりと踏まえることは重要です。その上で、最新の経済理論や計量分析の手法、過去の経験則、企業からのヒアリング結果などの情報を用いて、毎月の景気情勢の判断を行っています。

今何が起きているのかもよく分からないのに、先行きを見通すなんて、難しいお仕事ですね。

面白いですよ。ほら、あそこで会議している人たちも、真剣ながらも、どこか楽しげでしょう。

本当ですね。なぜでしょうか？

経済の調査や分析が好きだということもあるでしょうが、最終的には金融政策の適切な運営という日本銀行の使命に貢献できるからではないかと思います。

それがやりがいになっているんですね。

今日はとても勉強になりました。

ました。ありがとうございます。

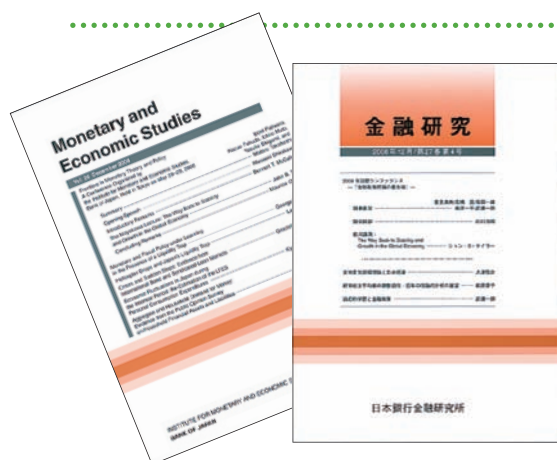
金融研究所

ようこそ。金融研究所の高橋です。

よろしくお願いします。

研究所のお仕事というと、遠い世界ののことのように思えるのですが。

そんなことはありませんよ。金融研究所では、日本銀行が金融政策を適切に運営していくために必要な金融や経済の基本的な問題について、理論や過去のデータの分析に基づいた研



究をしています。

なんとなく分かるのですが、具体的なイメージが浮かびません。

例えば、最近では、昨年秋季以降の世界的な金融経済危機の中で、金融政策がどのように運営されるべきかといったテーマで研究しています。また、過去に似た状況にあった時に行った金融政策の効果の度合いなどについて、統計データを使った分析も行っています。

大学の先生のようなお仕事でしょうか？

そうですね。ただ、私どもには、経済学の理論と中央銀行が直面する現実との「かけ橋」になる役割があります。理論がなければ適切な対応は難しいのですが、理論だけでも、変化する現実には対応できません。

金融政策を適切に運営するために研究を行っているのですか？

金融政策はもちろんですが、それ以外のさまざまな日銀の業務に関連した研究も行っています。具体的には、経済・金

融に関する事項だけではなく、法律や会計、情報通信技術、金融工学など、幅広い分野を研究対象としています。

最新の動きを把握しておく必要があるんですね。

はい。その一方で、私どもでは、金融や貨幣に関する歴史の研究にも力を入れています。理論だけでは分からない貴重な経験の積み重ねであり、歴史の中から学ぶことも多いと考えています。

研究の成果は公表しているのですか？

はい。研究の成果は、「金融研究」をはじめとする刊行物やホームページで発表しています。また、歴史的な資料の保存や公開も行っています。当研究所の貨幣博物館では、貨幣の歴史や関連するさまざまなテーマについて興味深い展示を行っています。ぜひ一度、お越しください。

今度、友達と見に来ます。

いろいろな研究をされているんですね。本日はどうもありがとうございました。